

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	REVOLT VENGEANCE	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.470	△RG	0.056	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：REVOLT VENGEANCE

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番

比較対照ボール：COVERT REVOLT

フレアーの幅 インチ

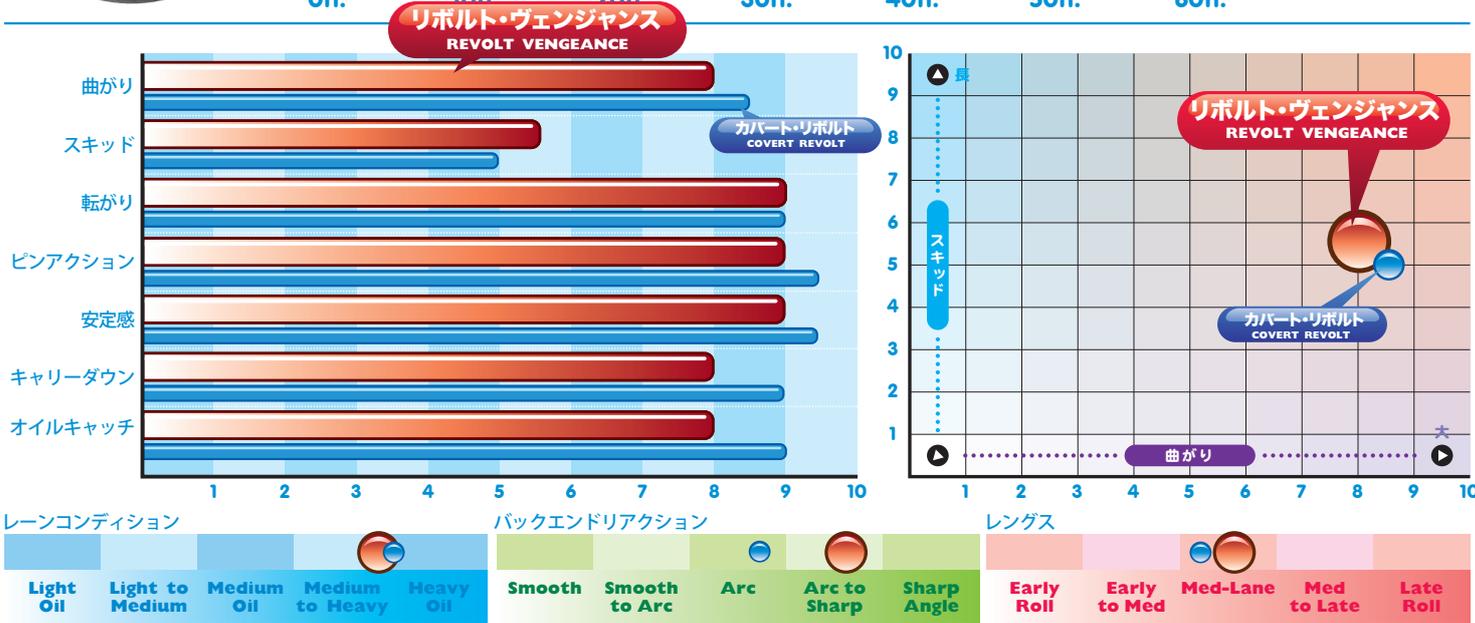
PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

昨年11月日本一を決定する全日本男子プロボウリング選手権、V4と三冠王を奪取するために川添プロがチョイスしたのがこのRevolt Vengeanceでした。市場ではまだまだRevoltが再入荷を続ける中、川添プロの使用する”M”のマーケティングがグリーンに輝くMOTIVのボールに問い合わせが相次ぎ、早くもRevoltの後継の実力を見せつけられた瞬間でした。

VENGEANCEのTurmoil HFH (High Friction Hybrid) Cover StockはRevoltのHFS (High Friction Solid)よりもスキッドを保ち、ドライゾーンではRevoltよりも鋭いフリクション系の反応の良い切れ味を感じさせます。今までのRevoltに先での動きが強化された性能に仕上がってきたので、より大きく幅を取った時の戻り幅を失速せず出し入れできることと同時に、ポケットヒットに必要な入射角までも得られてしまうのがVENGEANCEのもっとも特筆すべき点で、Revoltよりも攻撃的に仕上がっていますがミッドエリアでの曲がり始めの安定感はそのままだに”先でもう一回曲がる”、ただ単に先で暴れるように動くのではなく、安定感と共存した切れ味こそがVENGEANCEの真のパフォーマンスです。

今や”オイルに負けない性能”の代名詞としてプロ・アマ問わず使用頻度が高くなったMOTIV社のボール。RevoltからJackal、そしてVengeanceへと進化し続けるMOTIV社に恐ろしささえ感じます。

箱出しのフィニッシュでもよし。やや光沢を消して更なるVENGEANCEのパフォーマンスを知るのも良いでしょう。

Revoltよりも更に用途を広めたVENGEANCEは使い手を選びません。

特記事項

Revoltの後継はHybridカバーストックでの発売です。Revoltよりもカバーストックの形態を変えることで表面加工の差でパフォーマンスの差も幅広く対応可能。完売必至ですのでオーダーはお早めに